

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒755-0001
 住 所 山口県宇部市大字沖宇部5253番地
 氏 名 セントラル硝子株式会社
 代表取締役社長執行委員 清水 正 印
 (代理人) 川崎工場長 末永 茂
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	セントラル硝子株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区浮島町10番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	化学品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		10,810 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		20,645 t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2022 年度 ~ 2024 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

1. 事業者全体基本方針
 当社では、2030年度に2013年度比で温室効果ガス排出量40%削減という目標を掲げている。各事業所において、目標、計画、実施、確認を行いながら省エネルギー活動を進めており、今後も一層の省エネルギーに努め、さらなる温室効果ガスの排出の量の削減に努力する。

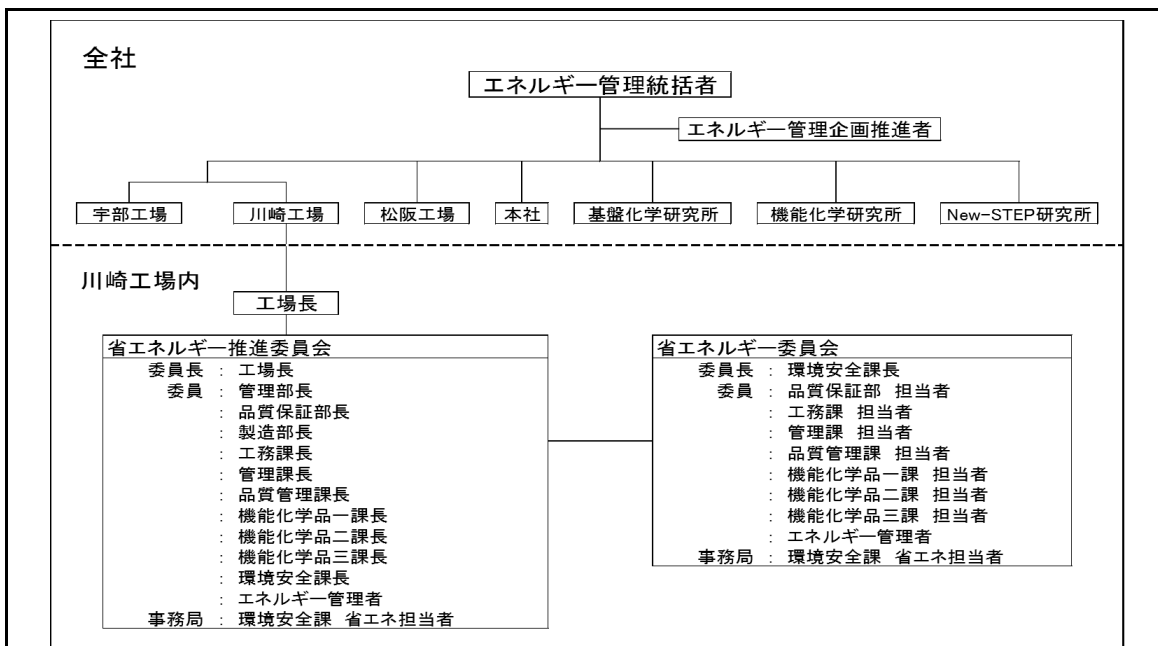
2. 市内事業所の基本方針
ISO14001認証取得
 取得日 : 2007年 5月28日
 活動範囲 : 製品の製造—HFC-245fa、HFIP、55%弗酸、塩酸、レジスト樹脂、レジスト樹脂原料、フッ素含有化合物(フッ素化ガス製品、電池電解液等)
 製品の貯蔵—無機製品

- ・ ISO14001規格に準拠して構築した環境マネジメントシステムに基づき、温室効果ガス削減活動を推進し、継続的改善を図る。
- ・ 製品の製造等に伴って発生する温室効果ガスを低減するため、工程の改善、効率の改善等を図る。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDC Aサイクル）を行うための方針

省エ委員による省エ委員会を定期に開催し、省エの年間計画の進捗確認と今後の対応を協議する。また、省エ推進委員会を開催し、各ライン長および工場長による省エ対策の評価を実施する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
基準	年度	2021 年度	
目標	年度	2024 年度	
基準	排出量	(実) 42,135 (調) 42,029 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
目標	排出量	(実) 42,088 (調) 41,982 t-CO ₂	(実) (調) t-CO ₂
削減量		(実) 47 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
内訳	対策実施による削減量	(実) 1,093 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実) -1,046 t-CO ₂	(実) t-CO ₂
削減率		(実) 0.1 %	(実) %

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等	3号該当者等
原単位等の活動量		生産数量	
原単位の単位		t-CO ₂ / t	
基準年度の値		5.390	
目標年度の値		3.818	
削減率		29.2 %	%

ウ 目標設定に関する説明

添付資料「目標設定について」参照とする。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○工場照明のLED化による電力量削減 <ul style="list-style-type: none"> ・LED照明への切り替え ○空気圧縮機の更新 <ul style="list-style-type: none"> ・圧縮機の小型化、インバーター制御化 ・ドライヤーの高効率化 ○245fa製造施設 ブライン冷凍機の更新 <ul style="list-style-type: none"> ・高効率化による電力使用量の削減 ○No.5バンク特高変圧器更新 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ効果の試算 ・特高変圧器の高効率化 ・切り替えによる省エネ効果確認
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

<p>2015～2021年度の主な取り組みを以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○熱利用設備の更新による蒸気使用量削減 ○生産設備の収率改善による蒸気使用量削減 ○ポンプの小型化による電力量削減 ○特高変圧器更新による電力量削減 ○蒸気の主配管の適正化 ○工場内照明のLED化
--

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	過去に検討した際は、利用予定は無しとなった。再検討予定である。
風力	○	風力の利用は予定していない。
バイオマス	○	バイオマスの利用は予定していない。
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○環境教育（ISO14001等）の実施 ○省エネルギー講習会、展示会への積極的な参加 ○従業員の通勤での公共交通機関利用の促進 ○省エネ推進委員会、省エネ委員会の定期開催 ○エネルギー管理規程の見直し
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	21,490	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

10,810	KL
--------	----

ウ 事業所の数

1

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
セントラル硝子株式会社 川崎工場	神奈川県川崎市川崎区浮島町10番2号	21,490 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

9 事業者における温室効果ガスの種類ごとの削減目標等 (4号該当者等)

温室効果ガスの種類	温室効果ガスの量 (t-CO ₂)			削減率
	基準年度	目標年度	削減量	
①非エネルギー起源CO ₂ (②を除く)				%
②廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源 CO ₂				%
③CH ₄				%
④N ₂ O	5	5	0	0.0 %
⑤HFC	20,640	20,640	0	0.0 %
⑥PFC				%
⑦SF ₆				%
⑧NF ₃				%